

## 令和4年10月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年10月21日（金）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関> 山形新聞、読売新聞、置賜日報、Y T S

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 東北中央自動車道東根北一村山本飯田が10月29日に開通し、米沢—新庄間全線がつながることになります。高速交通網の充実をどのように地域振興に生かしていくお考えでしょうか。一方で、通過地点となってしまう「ストロー現象」にどのように対応していかれるのか、戦略をお聞かせください。

(2) 全国旅行支援がスタートしました。地域経済への効果をどう捉えていらっしゃるでしょうか。市独自の上乘せをする予定などはあるのでしょうか。また、新型コロナ感染対策との両立をどのように進めていくお考えか、お聞かせください。

(3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度10月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長から米澤米まつり及び米沢牛の恩人ダラス先生感謝祭、米沢市と山形県公立大学法人山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学との包括連携協定締結に関する情報発信があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただきます、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

10月29日(土)10時から、山形おきたま農業協同組合米沢支店の駐車場で米澤米まつりが、11時からナセBA東側の市道ダラス通りを会場に、米沢牛の恩人ダラス先生感謝祭がそれぞれ開催されます。米澤米まつりでは、もちふるまいや秋野菜などの販売、ダラス先生感謝祭では食肉加工品の試食やキッチンカーの出店、米沢牛の特別販売などを行います。ぜひ両会場にお越しいただき、米沢の秋の味覚を通じて農業に親しみを持っていただきたいと思います。多くの市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

もう1点ですが、米沢市と山形県立米沢栄養大学並びに米沢女子短期大学との包括連携協定を10月14日(金)に締結させていただきました。今年度、山形県立米沢女子短期大学が創立70周年を迎えたことから、両者がこれまで積み重ねてきた協力関係をより一層強化するために締結したものです。今後も地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に向けて協力していきます。

また同日、環境保全に関する連携・協力の一環として、米沢市と公立大学法人、そしてHOYA株式会社アイケアカンパニーの3者間で、使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収に係る3者協定も締結しました。当日は、活動を担う米沢女子短期大学の学生によるプレゼンテーションもあり、頼もしく感じたところです。

今後は、健康長寿のまちづくり等を含めこれまでの連携を引き続き進めていきます。新たな連携分野として、世界農業遺産認定を目指し様々な取り組みをしている紅花の新たな商品開発や機能性の研究についての連携を考えています。また、市民と学生の交流機会も増やしていきたいと思えます。コンタクトレンズのケースはプラスチックでできていますが、その回収ボックスをコミセンや市役所などの公的な機関に設置して、学生のみならず市民の皆さんにも協力を呼びかけています。この取り組みは学生から大学側にこの取り組みをやりましょうという話があったようです。米沢市はプラスチックごみゼロ宣言をしていますので、プラスチックごみをゼロにするのはなかなか難しいですが、第一歩を踏み出すことができたということで学生の皆さんに感謝を申し上げます。情報発信は以上です。

今回のご質問は2点ありました。まず1点目は、「東北中央自動車道東根北一村山本飯田が10月29日(土)に開通し、米沢—新庄間全線がつながることになります。高速交通網の充実をどのように地域振興に生かしていくお考えでしょうか。一方で、通過地点となってしまう「ストロー現象」にどのように対応していかれるのか、戦略をお聞かせください。」という内容です。

まずは新庄まで繋がったということに対し、関係各位ご尽力いただいた皆さんに感謝し、心よりお慶び申し上げます。地域の活性化については、平成29年度に福島—米沢間が高速道路で結ばれました。そのことにより、米沢・山形・仙台・福島が一つの高速道路網で繋がったこととなります。車の交通量についても、それまでは山形に行く場合には宮城回りが約9割を占めており、米沢を通っていくのは約1割という情報がありました。平成29年度にこの道路が開通したことにより、宮城回りが約3割、米沢回りが約7割になったということで、交通量が増加したと言えます。そこに道の駅を開業したので、その効果もあり道の駅米沢への他県からのお客さんが増えたということで、地域の活性化・振興に繋がっていると思えます。

また、本市は山形県で最南端に位置しております。おかげさまで企業誘致も順調に進み、八幡原はご承知の通り100%完売、オフィスアルカディア団地も85%以上の分譲率となっていますので、そのような好影響が出ていると思えます。今後、新庄まで開通したことで、より交通量が増えてくると思えます。

これからの更なる振興策・活性化策として、米沢に立ち寄っていただけるような魅力作りに取り組んでいきます。また企業誘致についても、今後しっかりと状況判断をしながら、新たな工業団地をどうしていくか検討を進めていますが、こちらも対処していかなければならないと思います。いずれにしても、企業誘致、観光客の入れ込みも含めて、米沢に足を運んでいただけるように、観光面、産業振興面でも取り組んでいきます。

本日、米沢ブランドの第3回目のアワードがこれから発表されます。今まではほとんど、モノだけのアワードでしたが、今回の二次審査に進んだ7社には、ヒト・コトも選定されていました。米沢ブランドの大きな特徴の一つである、ヒト・モノ・コトをブランド化していくということが、少しずつ浸透してきて色々な取り組みが行われていることを大変嬉しく思います。このようなことも、これからの地域活性化の大きな戦略の一つとして形成していかなければなりません。その中には、天元豚などの食についてのプレゼンもありました。大変すばらしい豚肉だと思いますので、今後どのように加工していくか、冷凍で出してもらいたい等の要望も審査員の方からありました。解凍してすぐに食べられるような冷凍食品はブームにもなっておりますので、食肉公社側とも連携をとりながら、取り組んでいきたいと思っています。

ストロー現象ですが、平成29年に福島-米沢間が繋がったときは本当に心配になりました。仙台まで高速道路が繋がったということで、商圈、レジャーや買い物の部分が仙台に流れてしまうということは一定程度予想をしていました。しかしながら、そこまで影響はなく、ストロー現象といわれるような状況には至りませんでした。今回も、多少は観光面等で影響が出てくるとは思いますが、ストロー現象という状況には至らないと思います。逆に新庄まで繋がったことで交通量が増え、米沢に立ち寄っていただくにはどうするかを考えることが、米沢市として取り組んでいかなければならないことだと思います。

2点目は、「全国旅行支援がスタートしました。地域経済への効果をどう捉えていますか。市独自の上乘せをする予定などはあるのでしょうか。また、新型コロナウイルス対策との両立をどのように進めていくお考えか、お聞かせください。」という内容です。

今月11日(火)から全国旅行支援が開始されました。市内のホテル・旅館への予約は増加しており、場所や地域によって違いますが、少なくとも1割から3割ぐらいは予約が増えているという報告を受けています。ただこの全国旅行支援ですが、都会から県外の旅行客を受け入れるということで、インターネットで予約可能な大手旅行会社については、山形県の枠が無くなっているという実態です。いち早くテレビのニュースで出ておりました、なぜそんなに早く無くなってしまったのかと思っています。ただ、市内の旅行会社には山形県の枠は残っています。また市内の温泉にも確認をしたところ、枠は残っているとのことでした。今後、すでに枠が無くなっているところもありますが、ぜひ米沢の枠を使っていただき、温泉振興にも繋がっていただければいいなと思います。

市独自の上乗せですが、米沢市もこれまでコロナ関係で市独自のキャンペーンを行ってきた経過があります。ただこの度、県でやまがた秋旅キャンペーンを行っていましたが、全国旅行支援が始まる前日に終了しています。その後に、全国旅行支援に切り替えたということになっています。米沢市においては、上乗せすれば旅行者にとってはありがたいのですが、やる場合は別個にやって、他のキャンペーンと重複しない期間に支援をしていくことを考えた方が振興に繋がっていくと思いますので、市独自の上乗せは考えていません。

またコロナ対策ですが、基本的に全国旅行支援は、ワクチン3回目接種済みであることや、PCR検査結果が陰性であることが条件とされています。新しい旅のエチケットとして感染防止を徹底しながら、ぜひ多くの皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

先月の記者会見でも話しましたが、コロナでの行動制限がなくなりつつあり、報告義務があるのは65歳以上あるいは基礎疾患を持っている方が感染した場合に、保健所へ届け出すことになっています。全体としてそれぞれの自治体で何人感染しているか県から報告はこないの、学校や保育園、介護施設等でどのくらい感染したかはわかりませんが、コロナに感染した一般の方の人数は確認できない状況です。この件について県に電話と文書で、公表はしなくてもいいけれども開示をしていただきたいと思いますとお願いをしましたが、残念なことに県の回答はできませんということでした。現在、山形県の感染率は人口割にすると非常に高い割合になっています。先日、置賜総合支庁の健康福祉部長とも話す機会がありました。このまま感染拡大していったらどうするのですかというお話をしたところ、対策を考えていかなければならないという返答でした。現在コロナの実態が掴みにくい状況ですので、本質としての感染対策を今後どのように進めていくかについては、基本的な感染対策を市民の皆さんにお願いするしかないと思います。ご質問に対する回答は以上です。

#### ○記者

先の質問について伺います。先日の連休時に、道の駅よねざわがかなり人の入りもあり賑わっていたと感じました。一方で、道の駅の中を見たときに、長蛇の列でなかなか捌けていないような印象を受けたのですが、今後利用客を増やしたいと考えた場合にどのような展望をお考えでしょうか。

#### ○市長

列を作って会計待ちをしているのを目の当たりにしたときに、スペースの制限があるのでなかなか厳しい部分もあると思います。何か手段を考えて混雑時には何らかの対応をとるということも、道の駅を運営する会社とも連携をとっていく必要があると思います。そこから先の話は、広域的だったり、市内の観光とどのくらい結びついているのか、今後実態を把握しながら検討していかなければならないと思います。

#### ○記者

市としては、道の駅だけでなくその近隣の場所にも来てほしいという意図があると

と思いますが、そこに結びついているという情報はありますか。

○市長

若干はあると思います。置賜3市5町それぞれの観光スポットのカードを備えて、それを利用者の方に持って行っていただいて、割引や何かをいただけるという取り組みもしておりますが、多くの枚数が無くなっているところもあるようです。しかし、実態がなかなか掴めていないという状況です。観光情報を発信していくことで、利用者の皆さんに、せっかく道の駅に来たのだから、あそこにも行ってみようと足を伸ばしていただけるような取り組みが重要になってくると思います。

○記者

先ほども話に出た天元豚ですが、米沢に足を運んでもらう一つのコンテンツになると思いますが、天元豚の魅力と今後の発信についてお考えを聞かせてください。

○市長

天元豚を生産している畜産会社がようやく軌道に乗り始めてきたところです。様々な問題を抱えながら今の牧場で生産をしていますが、以前から比べると総数はまだまだ足りないというのが現状だと思います。今後、生産頭数を増やしていかなければなりません。加工製品は主に地場の食肉公社が担当していますが、アワードのプレゼンにもあったように、ドイツの品評会で金賞もいただいており、美味しいことは間違いありません。私も、美味しい豚肉だなと思います。ただ残念なことに、市内のスーパーにはまだ流通していません。流通しているところもあると思いますが、ほとんどがしていないという状況です。時々、市役所の職員を対象に販売会がありますが、それを買って帰ると、どこから買ってきたのか聞かれるくらいですので、まだまだ市内の皆さんにも認知不足で消費が定まっていないと思います。まずは生産頭数、そしてクリアすべき流通の問題等について、しっかりと取り組んでいきます。

○記者

全国旅行支援について、インターネットでの山形の枠は埋まっていて、利用者の中には、ネットの枠が埋まっているから予算がなくなり終了してしまったという認識の方もいると思います。市内の旅行会社や旅館等に残っている枠について、今後どのように利活用を進めていきますか。

○市長

実態を調査した結果報告をいただきました。市内の旅行会社や旅館等にどの程度の予約枠があるのかという情報を掴みながら、今後、県はどうするのか、秋旅から冬旅になるのか、それに対して市としてキャンペーンを張るのかという検討をしていかなければなりません。おかげさまで1割から3割程度予約が増加しているということなので、予約枠が残っているところをしっかりと消化してもらえるように、増加した部分で旅行支援が利用されれば良いなと思います。今後も調査を進めていきます。

○記者

1割から3割の増加というのは、キャンペーン開始前との比較ですか。

○市長

昨年の数値と比較したものです。

○記者

1割から3割の増加というのは多いと捉えられるかもしれませんが、キャンペーンが始まったのにこれしか増えていないとも捉えられると思います。市としてはどのように受け止めていますか。

○市長

やはりまだまだコロナの影響が残っていると思います。また、県外の方だと大手の旅行業者を使うと思いますが、その枠がすでに無くなっているという状況なので、行きたいと思ってもなかなか行けない、あるいは国道121号線の影響で米沢に入っただけでこられないということもあると思います。昨年から比べて1割から3割の増加というのは、手放しで喜べる状況ではありませんので、もっと増やしていく方策を考えていきます。

○記者

地域クーポンについて、城史苑に伺った際に、市外で宿泊した方の利用もある程度多くて予想外だったということでした。そこを山形として良しと見るのか、それとも宿泊に繋げていくために米沢市として取り組んでいく必要があると感じるのか、どちらでしょうか。

○市長

こういった旅行支援がどれだけインパクトがあるのかを考える必要があります。これから年末になり、雪の季節になってきますが、米沢ならではの特徴ある時期に、多くの方に利用していただくためにどのようなことをしていくか、様々な状況を判断しながら対応していきたいと思います。

○記者

米沢市の独自の取り組みとしての上乗せは考えていないということでした。合わせて使うことでお得感がさらに高まり、メリットもあると思いますがいかがでしょうか。

○市長

どこのお客さんをターゲットにするかでも対応は変わってくると思います。市内の方々をターゲットにする場合にはまだ予約枠が残っておりますので、利用可能だと思います。ただ大手の旅行会社には枠が無いので、これでは上乗せすることにはなりません。どのくらい山形県に枠がきているのか、今後どうしていくのかを調査しながら取り組まなければ、単に上乗せをしますよと言っても、本当に相乗効果が出るかもわからない状況なので、しっかりと考えて対応していきます。

○記者

コロナについての実態を教えてくださいという県への要望ですが、回答できないという返答だったということで、それを受けて今後要請はしないのですか。

○市長

今後、県はどうしていくのかという話もしました。現在、県でも今後の対応を考えていると思いますが、まだ回答はいただけていません。

○記者

国道121号線の件で、高速料金の支援についてその後新しい情報はありましたか。

○市長

今月24日(月)に片側開通を予定しておりますので、通学バスが迂回する必要がなくなります。そこで初めて多くかかった分がどのくらいの額か清算し、その後JHとの協議になると思います。

○記者

片側交互通行の開通後に、前と比べてどのくらいの利用者がいるのかという調査はしますか。

○市長

県でやるのか市でやるのかは決まっていますが、調査は行うと思います。以前の基本的な交通量は調査してありますので、片側交互通行によってどれだけの交通量が出てきたのかという調査は、河川事務所でやるのか県でやるのか、本市にも話はくるとと思います。現在まだ話はきていませんが、調査は行うと思います。

○記者

ダラス感謝祭について、牛肉のふるまいは限定で何名かに無料で行うのですか。

○市長

そんなに多い数ではありませんが、無料で試食を用意する予定です。

○記者

紅花入り餃子等も食べられるのですか。

○市長

はい。紅花まつりに合わせて食肉公社で作っていただいたオリジナル餃子です。

○記者

天元豚のソーセージなどもありますか。

○市長

はい。アワードのプレゼンの中でも、ダラス祭に出店しますので皆さんお求めくださいという内容がありました。

○記者

同日に米まつりもあるのですね。

○市長

米まつりも人気があるみたいです。

○記者

あの通りにダラス通りという名前がついてからは、初めてのイベントですか。

○市長

ダラス感謝祭というのは初めてです。

○記者

初開催にあたり、これから感謝祭というイベントをどのように育てていきたいか、あるいは第一回目の開催に対する市長の思いを聞かせてください。

○市長

米沢牛あるいは天元豚、また米沢には羊肉もありますので、本市は肉のまちと言ってもいいと思います。ただダラスさんは米沢牛の振興に関わった方ですので、米沢牛を中心に感謝祭をどのように定着させていくかについては、ダラス協会の皆さんと生産者、様々な関係者と連携をとりながら、米沢牛の普及・振興にも努めていきたいと思います。

○記者

ダラス感謝祭は、ダラス通りを通行止めにしてやるのですか。

○市長

はい。通行止めになります。

○記者

あの通りを通行止めにしてやるイベントは初めてですか。

○市長

通行止めにするのは初めてだと思います。

○記者

10月も20日間が過ぎ、オクトーバーランも残り10日になりました。市長がトップの記録ですが、参加者がもう少し増えてもいいのかなと思うのですが。

○市長

現在どのくらい参加しているのでしょうかね。

○記者

残り10日で、市民にさらに呼びかけるメッセージはありますか。

○市長

私が歩きすぎていることがマイナスになっている感じがしないでもありません。今回はあと3分の1しかありませんので、これからさらに呼びかけるのは厳しいかなと思います。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度10月の定例記者会見を終了いたします。